

LECTURE

講演会報告



パネルディスカッション



中村利雄事務総長

愛・地球博閉幕1周年記念事業も一段落した折、万博事業に参加・協力した本学関係者中心のシンポジウムが開催されました。

記念講演は、中村利雄事務総長から「愛・地球博の成果とその理念の継承」をテーマに、裏側の創意工夫など、日々の努力・改善やスタッフはじめ関係機関、ボランティア等の一心団結・協力により、21世紀

●現代GP・ASM、文化創造学部
多元文化学会共催シンポジウム
「新しい社会を創造するキーワード：
大学生の社会活動への参加」

●10/29 星が丘キャンパス

最初の万博が大成功を収めたこと、そして環境保護や市民参加という理念の社会浸透に貢献できたことを語っていただきました。

続くパネルディスカッション「大学生の社会活動参加の可能性」では、文化創造学部の榎田勝利教授をコーディネーターに、トヨタボランティアセンターの鈴木宏宏氏、万博地球市民村に参加出展した新海洋子氏、万博ボランティア参加の多元文化専攻4年生の小林佳子さんらが、企業の社会貢献活動、市民団体の役割、若い学生のボランティア観などの活動経験を振り返りました。

当日は本学のオープンキャンパスも併催されたので、学外者の参加も多く、特に若い高校生らが質疑応答にも参加して、本学の社会活動推進に対する関心が寄せられました。

●ジェンダー・女性学研究所主催
第16回定例セミナー
「DVの実態と被害者支援の現状
～DVの加害者にも、被害者にもならないために～」

●弁護士 可児康則氏

●11/8 長久手キャンパス
11/30 星が丘キャンパス



講師

講演ではまず、被害者がなく、被害者にならないために～」

内閣府の調査でも3人にひとりの女性がDV(ドメスティックバイオレンス)・親密な関係における暴力を受けた経験をもつという結果が出されており、DVはいまや特別な問題ではなく、日常の生活に潜んでいます。

今回は、多くのDV事件を手がけ、DV被害者の救済を行うとともに、DV政策の提言を活動に行っている可児弁護士をお迎えしてお話を伺いました。

講演ではまず、被害者がなく、被害者にならないために～」

さらに、現在徐々にではあるが被害者救済の環境が整いつつあることから、DVの兆候を察したならば一人では抱え込まずに、専門相談窓口(各自治体が開設している)に相談することが大事であると強調されました。

●文学部英文学科企画
第5回文学部講演会
「メンタル・レキシコンの世界
—語彙の獲得・処理・学習—」

●神戸大学助教授 横川博一氏

●12/1 長久手キャンパス



横川先生(右下)の指示に従い、ペアでトレーニングする学生

講演内容は、横川先生の専門分野の心理言語学や英語教育学の研究成果をもとに、英語母語話者の日常生活における基本語彙レベルの具体的な紹介から、脳科学の分野にも関連する語彙獲得のメカニズムの説明、実際の英語の語彙学習法の体験など、聞いていて、すぐに実践してみたいような内容ばかりでした。

100人を超える聴衆は、中学や高校の英語教科書執筆者としての豊富な経験の

ある横川先生の指示にしたがって、ペアでトレーニングを積極的に実践しました。印象的だったのは、英語を話すために、自分が使うことのできる語彙を増やすための練習法でした。この講演を聴く機会に恵まれた学生は、今後この練習法を継続して、きっとこれまで以上に英語の力を伸ばしていくと思います。

●文学部図書館情報学科企画
第4回文学部講演会
「米国における一般の人々への健康情報サービス活動」

●米国ピッツバーグ大学
図書館情報学大学院準教授
Ellen Detlefsen氏

●10/10 長久手キャンパス



講師はピッツバーグ大学では、消費者健康情報サービス、医療情報サービス、医療情報学応用などといった大学院のクラスを担当し、医療における情報学分野での第一人者で、これまでに数多くの医学図書館員、情報担当者、教育者を育ててこられました。また、講師は講演などで本学に二度来学されています。

今回の講演では、消費者健康情報サービスの定義から始まり、そのサービスの内容、サービスを提供する人の資質、資格、教育、提供する場所、とくに図書館員および図書館のこ

こでの位置などについて明快に解説されました。そして、米国でのこれらのサービスの事例を紹介されました。一般の人々への健康情報の提供の問題はわが国でも重要になっており、時機を得た内容でした。

また、講演のスライドは事前にメールで送られていたため、これを日本語に翻訳して当日用いました。英語での講演を初めて聴いた学生にとっては、彼女の歯切れの良い英語と日本語の画面とで理解しやすい講演会となり、最後には活発な質疑が行われました。

●ビジネス学部主催 学術講演会
「IBMの経営情報化社会の進展」

●日本アイ・ビー・エム株式会社
特別顧問(前副会長)
本林理郎氏

●11/8 長久手キャンパス



ビジネス学部ジョリー幸子教授の司会進行で、まず梅田敏文学部部長の挨拶があり、続いて講師の本林理郎氏から1時間半にわたって、次のような講演を頂きました。

IBMの足跡(IBM概要、企業リスクの変化と拡大、1990年代の変革)、進展する企業経営(進展する企業経営、

イノベーション経営、日本の特質、国際展開の留意点、外から見た日本の経営の課題)、加速する情報化社会(ネットワーク社会への発展、オンデマンド経営、事例紹介、ライフサイエンス、情報技術の動向情報技術の進展、ディープ・コンピューティング、グリッド・コンピューティング、オートノミック・コンピューティング、ICタグ、ユビキタスについて明快に語られました。

今回の講演は将来社会に巣立っていく学生達への示唆、指標となる大変興味深い内容でした。



ポスターセッション



昨年9月1日、長久手と星が丘の両キャンパスに開設されたCCCは、「地域に根ざし、世界に開く」という本学の理念に基づき、地域と連携しながら、ボランティア活動やインターシップ研修を通じて、学生が社会貢献について学ぶことができる教育プログラム

の提供に取組んでいます。

12月15日の開設記念講演会では、トヨタの幅広く系統的に行われている社会貢献活動について紹介があり、地域団体・企業131人、学生教職員159人、総計290人が共に学ぶ機会となりました。続く交流会は、インターシップ、ボランティア、地域との連携活動について学生のポスターセッションを開催。6事例について学生15人が発表し、参加者との意見交換が熱心に繰り広げられました。ほかに、学生と連携した中部電力担当者や千種区・名東区の社会福祉協議会・ボランティア団体からの感想も紹介され、企業・近隣ボランティア団体等の多様な方が集う熱気あふれる会となりました。

- 文学部国文学科企画・国文学会運営 第6回文学部講演会 「面白くて辞められない! ~美術館の舞台裏~」
- 名古屋ボストン美術館学芸員 鏡味千佳氏
- 12/19 長久手キャンパス

攻(99年)を卒業して現在、名古屋ボストン美術館学芸員を務める鏡味さん。同美術館の最近の二大展覧「花鳥画の煌めき―東洋の精華」と「肉筆浮世絵展―江戸の誘惑」の主担当という重責を立派に果たし終えたばかりです。

講演は前職の古川美術館学芸員時代の経験をも加えて、展示作品を借用した際の所蔵者とのやりとりや著作権者にまつわるエピソード、さらには作品鑑定に関する秘話、ボストン出張の際のアメリカの学芸員との交流など、盛りだくさん。豊富な映像資料を駆使してのお話からは、笑いあり涙ありの学芸員の奮闘ぶりが如実に伝わって、興味の尽きない楽しく充実した時間となりました。

- 愛知淑徳中学・高等学校PTA講演会 「能の活性化」
- 名古屋市立大学学長 西野仁雄氏
- 11/9 センテナリーホール

化にはよく使うことが肝要だとのことでした。

脳の基本は胎内でほぼ完成するが、使うほどに回路が活性化され、神経細胞が新生し、よく働くようになります。これは老齢になっても、働きは衰えません。また脳は脳幹(生命体)、辺縁系(情・快・不快)、大脳皮質(知能・理性・意志)の3分野に分かれ、辺縁系と大脳皮質と連携をとることで、共感や思いやりといった人間的行為が発現されるということでした。

最近の社会問題になっているいじめの問題も、これらが解決の糸口になるように思われました。2時間近くも熱心に話していただき、終了後も多くの質問が出され、熱気に満ちた講演会でした。